

『食料安全保障・栄養に関するG7国際シンポジウム』

藺浦健太郎外務副大臣による基調演説（案）

（平成28年10月25日（火）開会セッション9:30-9:55, 於：国連大学）

1. 冒頭

●安倍昭恵内閣総理大臣夫人，開会の御挨拶をありがとうございました。日本国政府を代表して，私からも御出席の皆様を心から歓迎申し上げます。

2. G7伊勢志摩サミットにおける成果

●今日，飢餓と栄養不良は，世界に深刻な課題を引き起こしています。国際社会は，農業による成長と食料安全保障・栄養を強化することにより，この問題の解決のため，共に取り組まなければなりません。

●今年の伊勢志摩サミットにおいて，首脳らは『食料安全保障と栄養に関するG7行動ビジョン』を承認しています。そして，2030年までに開発途上国における5億人を飢餓及び栄養不良から救い出すという目的の達成に向け，具体的な行動を協働して進めることにコミットしました。

3. G7行動ビジョンの重点分野と目指すべき「3つの未来」

●行動ビジョンでは，食料安全保障と栄養に関する具体的な行動をとる3つの重点分野を特定しています。

● 1 つ目の重点分野は、農業・フードシステムにおける女性のエンパワメントです。ここでは、①女性が同等の権利及び資源（特に土地）へのアクセスを持つことを推進すること、②農地及び農地以外の双方においてより高額かつ適正な利益を得られる経済的機会を増やすこと、また、③女性が経済活動に参画できるような環境を創り出すことを目指しています。これにより、農業・フードシステムにおいて女性が耀き、積極的に貢献する未来につながります。

● 2 つ目の重点分野は、人間中心のアプローチによる栄養の改善です。このアプローチは、生涯を通じ、また農村から都市にわたって、あらゆる形態の栄養不良に苦しむ脆弱な人々の多様なニーズに着目するものです。これにより、G7は、人々及びコミュニティのエンパワメントにより、特定の人口集団のみならず、人間一人ひとりが栄養改善の持続的な成果を得られるようにすることを目指しています。子どもたちの栄養改善は、彼らの健やかな発育にとって、また経済・社会活動に積極的に参画する上で、極めて重要です。栄養への投資は、子どもたちがその可能性を最大限に開花させられる未来への投資なのです。

● 3 つ目の重点分野は、**持続可能性と強靱性の確保**です。G 7 は、①気候変動に関する持続可能な農業慣行を促進することや、②責任ある農業投資を促進すること、③農村から都市にわたる様々な場所における農業とフードバリューチェーンの連関を強化すること、④天候によるショックや長期化した危機状況に対する農業従事者の生計手段の強靱性を強化することや、農業及びフードシステム自体の強靱性を高めることを目指しています。これらは、**地球環境の持続可能性が確保された未来**につながります。

●さらに、G 7 は**データ改善のための取組にコミット**するなど、実施とアカウンタビリティの強化のための措置をとります。

4. 結語

●振り返れば、G 7 サミットで食料安全保障が初めて取り上げられたのは、2008 年の北海道・洞爺湖サミットでした。その後、様々な取組が積み重ねられ、昨年のエルマウで開発途上国の 5 億人を飢餓及び栄養不良から救出するとの野心的な目標設定に至っています。これらを踏まえつつ、SDGs と気候変動に関するパリ協定の実施の上でも、また、8 月にブラジルで開催された「成長のための栄養」イベントや、ケニアで開催された TICAD VI で安倍総理から発表した「食と栄養のアフリカ・イニシアチブ」立ち上げから生じた機運をさらに強化する上でも、本国際シンポジウムは重要な機会となるよう願っています。

●恐怖と欠乏から免れ、人間一人ひとりがその可能性を最大限に開花させる「人間の安全保障」を実現する上で、食料安全保障と栄養に関する取組の強化が鍵であり、SDGs 達成のためには全てのステークホルダーによる更なる取組の加速化が不可欠です。

●この2日間で活発な議論がなされ、成功裡にグローバルな取組を集集し、課題への対処のためのより良いやり方や、更なる連携を強化する実り多い機会となることを祈念し、私からの挨拶といたします。

●ありがとうございました。

(了)